戦後・被爆80年

戦前回帰ゆるさない

憲法生かす政治 今こそ

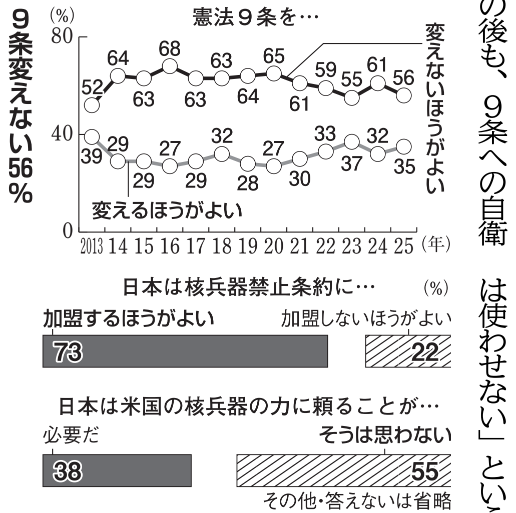
戦後・被爆80年、7月の参議院選挙では、二度と戦争をしないと誓った日本国憲法を守り生かす政治へ、政党の選択が問われます。

揺るがぬ9条改憲ノー

　憲法施行から78年を迎えた5月3日、東京都内で3万8000人が参加した2025憲法大集会（同実行委員会）では、「戦争ではなく平和なくらし！」「改憲勢力には審判を」と声をあげました。

　今年は、共同でおこなう憲法集会が10年目を迎える節目の年。10年前、憲法を破壊する安倍政権に立ち向かうため、それぞれの団体・労組などが開いていた集会を一緒に力をあわせて3万人を超える集会を成功させ、安保法制（戦争法）反対の大きなたたかいにつながっていきました。その後も、9条への自衛隊明記や緊急事態条項創設など、幾度も訪れた改憲の危機をはね返してこられたのは、この憲法集会を中心としたねばり強い市民運動があったからです。

　2013年から毎年、憲法9条に関する調査を続けている朝日新聞では、今年も「変えないほうがいい」が多く、核兵器禁止条約に「加盟するほうがよい」73%、日本が米国の核兵器の力に頼る「核の傘」不要派は55%と、戦争も核兵器もノーの世論が多数です。



9条変えない56%

2025年朝日新聞社世論調査より

戦争反省の原点こそ

　戦後の日本の女性運動の出発点は、「再び戦争させない、核兵器は使わせない」という共通の思いです。過去の日本の軍国主義の罪悪をつぐない、1947年に施行された日本国憲法に、恒久平和、軍備の撤廃、戦争放棄が明記されたことは大きな喜びとして受け止められました。1960年代、憲法違反の軍備拡大がおこなわれるなか、新婦人創立よびかけ人の平塚らいてうの「憲法改悪をねらう汚れた手から、憲法を守りぬかなければならない」との言葉は、当時の女性たちの強い決意を示しています。

　戦後80年の年に、石破政権は、学問への政府介入、軍事研究に道を拓く学術会議解体法案を強行しようとし、自民議員が沖縄戦の歴史捏造（ねつぞう）を図る暴言をはくなど、侵略戦争への反省をなかったことにする戦前回帰の動きをつよめています。集会でよびかけられた、「the END自民党政治」の運動を広げ、大軍拡反対の署名と対話、参議院選挙に向けた運動で改憲勢力を追い詰めるときです。

問われる政党選択

　集会には、立憲民主党の辻元清美代表代行、日本共産党の田村智子委員長、れいわ新選組の櫛渕万里共同代表、社民党大椿裕子副党首、参院会派「沖縄の風」の伊波洋一代表があいさつ。「戦争国家づくり許さない」「すべての条項が花開き、平和と民主主義を前に」と訴えました。政党代表の4人が女性だったのも、10年前と大きく変わった景色です。

　一方、都内で開かれた改憲をめざす集会には、自民党、公明党、日本維新の会、国民民主党など800人が参加。石破首相は「緊急事態対応と自衛隊の明記を最優先に取り組んでいく」と改めて意欲を示し、ここでも自公政権を補完する維新、国民民主の役割が浮きぼりに。選挙での政党選択が問われます。

【憲法前文】「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないようにする」「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」
第九条［戦争の放棄。戦力の不保持・交戦権の否認］
第十章最高法規　第九十九条［憲法尊重擁護の義務］

憲法「改正」に各党は

自　民	自衛隊明記、緊急事態対応、議員任期延長制度創設など、憲法改正を早期に実現
立　民	「論憲」をすすめ議論を深める。衆院憲法審査会の会長となり、改憲のための国民投票法議論推進
国　民	緊急事態条項創設、議員任期特例延長規定を創設
維　新	停滞している憲法改正の議論を積極的にリードする
公　明	自衛隊を位置づけることについて検討を進めていく
共　産	憲法９条を守りぬき改憲に断固反対。改憲でなく政治転換を
れいわ	安易な改憲ではなく、現行憲法実践、法律・制度の整備
社　民	憲法９条を守り平和憲法を暮らしに生かす政治実現
参　政	「創憲」に向けた国民運動を推進

2024年選挙公約、2025年憲法審査会での主張より

核兵器は絶対使ってはいけない

日本原水爆被害者団体協議会代表委員　田中熙巳（てるみ）さん

　13歳の時に長崎で被爆し、原爆の被害は私の目を通して脳裏に焼きついています。核兵器は絶対に使ってはいけない兵器です。

　いま世界には1万2000発の核兵器があり、そのうち4000発がすぐにでも発射できる状況にあります。ロシアは核で脅しながらお隣の国を侵略し、イスラエルは核を使うこともあると言ってパレスチナを攻撃しています。国境で争っているインドとパキスタンは、両方とも核兵器を持った国です。この数年の間、世界は本当に核戦争が始まるかもしれない危険な状況にあります。

　ノーベル委員会は、原爆の被害の証言を続け、核のタブー、核兵器は絶対に使ってはいけないという規範を70年にわたってつくり上げ、80年間核戦争を起こさせなかった日本被団協の被爆者たちの役割を、もう一度果たしてもらいたいと、日本被団協にノーベル平和賞を贈りました。また、若い人と協力して被爆証言を継承してきたことも評価しました。

　私は93歳、私たちの運動を引き継いで、みなさんが、世界中に核兵器の非人道性を広げていただきたい。核兵器も戦争もない世界、人間社会をつくり上げましょう。

軍拡ではなく
いのち・くらし！
ジェンダー平等
いますぐ実現！
LOVE憲法

メッセージボードでアピール（5月3日　憲法大集会）

新婦人沖縄県本部

歴史改ざんの西田暴言に抗議

　5月14日、新婦人沖縄県本部は、那覇市内で開かれた改憲派の「憲法シンポジウム」（県神社庁など）で、「ひめゆりの塔」の展示は「歴史の書き換え」「沖縄はむちゃくちゃな教育をしている」と発言した自民党西田参院議員に抗議の記者会見を行い、発言の全面撤回と謝罪、自民党本部に厳重処罰を求めました。おじい、おばあから沖縄戦の話を聞いて育った40代の会員も参加し、沖縄戦の実相を知らない、史実をゆがめる発言に断固として抗議しました。憲法記念日に、憲法改正を悲願とする西田氏を招いたことは、共催の自民党県連の責任も重大です。参政党神谷代表の擁護発言も続き、県民の平和をつくろうとする運動への抵抗に憤りを覚えます。

　豊見城支部の会員で教員の玉城夢さん（35歳）は、「戦争への歩みを進めてはいけません。絶対に。今、私ができることは教育者として、正しい知識を得て、後世に平和の尊さを伝えられる人を育てていきたい」と話します。

記者会見をする沖縄県本部の代表

女性　働く　月1回

法で守られない公務員　②

会計年度任用職員とは

野田　恵

出産で一度退職したら

　私は、関西のある市役所で働く会計年度任用職員です。

　私は父母と姉と4人家族でした。私が中学校一年生の時、父は41歳でがんのために亡くなりました。父が亡くなった後、母は一人で私と姉を育ててくれました。なので、私は女性でも働き続けることは、当たり前だと思っています。

　市役所に勤務する前は、正社員で10年近く働いていました。働く中で少しでも知識を身に付けて自信をつけたいと思い、国家試験にも挑戦し、なんとか合格することができました。他にも挑戦したい気持ちがわいてきて、宅地建物取引士の資格も取得しました。

　この経験から私は、〝何事においてもできないことはない〟と思うようになりました。自分で得た資格や技能を生かすことができる仕事はやりがいがあり、結婚後も仕事を続けました。

　しかし、妊娠がわかり、深夜までの残業が当たり前の当時の職場では子育て中の女性は誰もおらず、産休・育休など取れる雰囲気はありませんでした。出産前ギリギリまで働きましたが、仕事と育児を両立しながら働き続ける自信はなく、退職する道しかありませんでした。

　大企業や公務員であれば、産休や育休が取得でき、その後安心して働き続けることができたのでしょうか？

　出産後、会話ができない長男と二人きりの毎日に、社会から取り残されたような気持ちになり、「やはり働きたい、社会に出たい」と感じるようになりました。そこで、ハローワークに赤ちゃんを連れて仕事を探しに行きました。

　ところが、求人先に「保育園の慣らし保育があるから、初めは昼までなど勤務時間を考慮してもらいたい」と伝えると、面接すらしてもらえませんでした。

　女性は、人生の中で数回しかないであろう出産を経験すると、それまで得た仕事の知識や技術はないことになってしまうのでしょうか。

　一度退職してしまったら、出産後に育児をしながら正社員で働くことは大変難しいと思い知らされました。

ホットラインの投稿は編集部メールアドレス　s-press@shinfujin.gr.jp へ

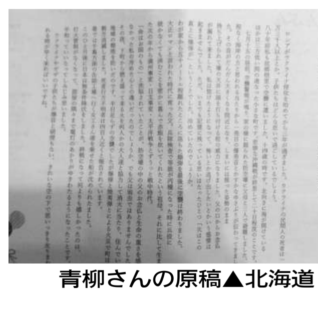
ホットライン

北海道

「私の戦争体験」支部ニュースに

【札幌豊平支部　五十嵐直子】戦後80年の年、次世代に伝えておかなければならないこととして「私の戦争体験」を募集しています。最初の投稿は、たかの班の青柳さん。根室空襲はご本人から聞いていましたが文章になると、また迫ってくるものがあり、14歳の見た、感じた戦争がありました。

　青柳さんの文章が支部ニュースに載ると、班では感動がラインで飛び交っていると、班長から報告がありました。市民の感じた戦争を語り継いでいきたいです。



青柳さんの原稿▲北海道

高知

「平和さんぽ」で戦跡めぐり

【高知市支部】第10回「平和さんぽ」。今年は「特定利用港湾指定の須崎湾見学と戦跡をあるこう」と題して須崎市議の宮田志野さんと杉山愛子さんの案内で戦跡めぐりをしました。昼食後に、仁淀川平和委員会の山岡進さんによる「沖縄の軍事化」報告もあり、平和について考え、普段行けないところを見たり、貴重な体験ができました。

説明を聞いて▲高知

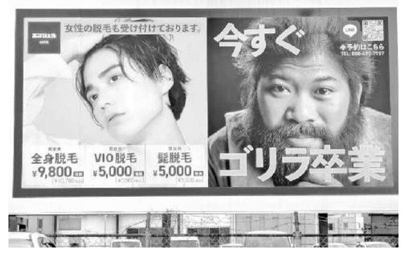
徳島

脱毛サロンの看板広告で要請

【徳島支部　小池民代】支部で某脱毛サロンの広告看板について討議し、人権に配慮した看板への付け替えを要請しました。きっかけは1人の会員の声から。『今すぐゴリラ卒業』と書かれた大看板があるが、とても不快だ。体毛の濃い子どもの心を深く傷つけ、その子に対するいじめを助長する恐れがあるのでは」と。

　そもそも「美しさ」は個性や多様性の尊重を前提として語られるべきもの。体毛の濃さを理由に人を動物に例える表現は人権にも関わる問題であり、見過ごせません。

　4人で行きましたが、オーナーは不在。社員の方に要請文を渡し、会社の反応を待っています。



会員の声から▲徳島

長崎

次世代BBQランチ

【県本部】4月29日、次世代メンバー家族（5人）と10人で、会員の庭でちょっと豪華なBBQランチをしました。

　五月晴れの下、話に花が咲きました。「新しい高校は、校則がそんなに厳しくなくてよかった」と基本楽しい高校生活のようでした。「部活は生徒会に入って、運動会の準備を積極的に」「多目的トイレは設置されてない」「男子の体操服は青、女子は赤と決まっている」と次世代の子どもたち。高校生活にジェンダー平等はこれからのようです。

　次世代は、「早く選択的夫婦別姓制度になってほしい」「米が高すぎる」…と話題はつきず、恒例の「夏休みデイキャンプ」の日程と再会を確認しました。

五月晴れの下▲長崎

静岡

初めての小組合同体験会

【静岡支部　吉澤はつ江】4月18日、静岡支部北部の小組合同体験会を開きました。9850枚のチラシを新聞に折り込み、問い合わせの電話が何本もありました。

　当日は会員30人、体験者は15人。新聞ちぎり絵、太極拳、笑いヨガ、リコーダー、コーラス、朗読、手作り小組の発表と編み物小組作品のファッションショーで、楽しくにぎやかな会に。当日5人が入会。その後も入会が続き4月は10人が入会しました。

　北部での体験会は初めて。北部の四つの班が準備をしてきたことが成功の源だったと思います。

編み物小組のファッションショー▲静岡

兵庫

朗読小組で発表会

【西宮支部たんぽぽ班　阪本みずほ】〝声を出して元気になろう！〟と始めた朗読小組「ぽちぽちいこか」は結成20年！そして12年目の「ねね」（のれんわけ）。朗読発表会を3月29日に開きました。

　総勢18人で、最高齢87歳です。「忘れたことも忘れてしまう」年齢となり、ハプニングも笑いに変えながらの2時間。オープニングの「シニア川柳」ではみなさん大笑い。絵本、エッセイ、そして最後は「おばあちゃんのいまはむかしものがたり」という戦争体験記の朗読。200人近くのお客様から大好評でした。

総勢18人の朗読グループ▲兵庫

和歌山

100歳の会員お祝いに

【龍神支部　赤石克子】5月8日、100歳の会員のお祝いに行きました。田舎の地域で、ずっと、先を歩き続けている大先輩です。今は施設に入られていますが、みんなからは、「しーちゃん」と呼ばれている新婦人のレジェンド。ずっと志を持ち続けて、先輩の後を追いかけますからね。

100歳おめでとう▲和歌山

通信ありがとう

〈4月〉
〈県別〉
北海道67、青森9、岩手16、秋田5、山形5、宮城6、福島7、東京73、群馬10、栃木6、茨城13、埼玉25、千葉24、神奈川28、山梨2、静岡9、愛知39、岐阜13、三重16、新潟15、富山2、石川7、長野25、福井1、滋賀4、京都92、奈良11、和歌山12、大阪67、兵庫41、岡山5、広島6、鳥取5、島根5、山口7、香川1、徳島9、高知3、愛媛3、福岡8、佐賀1、長崎2、熊本10、大分5、宮崎1、鹿児島2、沖縄2
〈内容〉
県活動3、支部活動29、班活動19、俳句115、短歌80、川柳87、詩4、絵手紙62、ギャラリー4、投稿322
合計725